

京都の世界遺産

嵯峨乃やのかわら版では、世界遺産である京都をご紹介します。

京都の文化世界遺産シリーズ その11



高山寺 (こうざんじ)

774年（宝亀5）光仁天皇の勅願で建立されたとの伝えもありますが、当時の実態は明らかにはなっていません。平安時代には、近隣の神護寺の別院とされ、神護寺十無尽院（じゅうおじんいん）と称されていました。これは本寺から離れた、隠棲修行の場所であったといわれています。

鎌倉時代に入り1206年（建永1）、高山寺中興の祖とされる華嚴宗の僧、明恵（みょうえ）が後鳥羽上皇から梅尾の地を与えられ、寺院を再建しました。また上皇からは「日出先照高山之寺」の額も下賜され、この句が今日の寺号となりました。中世以降、戦乱や火災によってたびたび焼失しましたが、石水院（国宝）は、鎌倉時代初期よりの寝殿造りを今に残しています。

1966年、仁和寺による双ヶ丘の売却に抗議し、真言宗御室派から離脱、真言宗系の単立寺院となりました。

北山杉の里にある高山寺の見どころとしては、騒々しい街中とは比べものにならないほど静かな時がゆったりと流れています。鎌倉時代に明恵上人が開いた寺で、「鳥獣人物戯画」（国宝）が有名です。モミジのパノラマが展開され、国宝・石水院からの眺望が素晴らしいです。楓が赤く燃えて明るさを増し、高尾、槇尾に負けない美しさです。

また、高山寺は日本で初めて茶が作られた場所です。



足を五本指に開放することで、得られる健康は、外反母趾の矯正、姿勢の矯正、冷え性緩和など、計り知れないものがあります。足の指を五本指に開放する「木曾ねずこ製」の下駄を開発しました。このGETALS（ゲタル）とは、下駄とサンダルを合わせた造語です。日本の伝統としての下駄と斬新な鼻緒を融合させたまったく新しい下駄を紹介しています。このGETALSは、商標登録の出願をしています。GETALSのページは、<http://www.kimono-saganoya.com/getals/>です。

